

# まほろば秦野通信

令和6年2月8日

タイトル	<b>下水道作品コンクール 市内小学生7人が入賞しました</b>
When (いつ)	<b>【表彰式】</b> 2月17日(土)
Where (どこで)	<b>【表彰式】</b> 小田原三の丸ホール 小ホール (所在地: 小田原市本町1丁目7-50)
Who (だれが)	<b>【主催】</b> 公益財団法人神奈川県下水道公社 <b>【入賞者】</b> 市内小学校の4年生7人(詳細は別紙のとおり)
What (なにを)	<b>【作文の部(応募総数71点)】</b> 優秀賞1人
How (どのように)	<b>【書道の部(応募総数2,798点)】</b> 最優秀賞1人、優秀賞1人、入賞4人
Why (なぜ)	毎年、(公財)神奈川県下水道公社では、授業などを通じて大切な下水道の役割を学んでいる小学生を対象に、下水道に関する作文やポスター、書道の作品募集を毎年行っています。
過去の実績	毎年、市内小学校4年生が作品を応募しています。
今後の取り組み	入賞作品については、下水道公社が主催する「下水道ふれあい祭り」等のイベントで展示される場合があります。
問い合わせ	経営総務課 総務担当: 川上 電話: 0463(81)4113

秦野市政策部広報広聴課(指宿) 電話: 0463(82)5117

## 「みんなの水のために」

優秀賞

秦野市立北小学校

きりやま

桐山

ひろと

寛都

ぼくは、夏休みに、小田原市にある下水道しょ理しせつを見学に行きました。そこでは、小田原市だけではなく、ぼくが住んでいる秦野市や松田町、中井町など近りんの町の水をしよりしていました。

下水道しょ理は、人間が使ったきたない水をきれいにして、川や海へ流すそうです。今までぼくは、使った水がどんな風になるのかをくわしく知りませんでした。

例えば、牛にゆうを1リットル1本分を流したとすると、きれいな水にするためには、25,300本分の水が必要になるそうです。ぼく達が食べたり、飲んだりしている物が、こんなに水をよごしてしまうなんて、初めて知り、とてもおどろきました。これからは、のこさなのように食べたり飲んで、流さないようにしようと思いました。

またぼくの好きなあげ物に使う油も、流してしまうと、下水かんの中でかたまり、くっついてしまい、つまる原因になるそうです。だから、お皿などに付いた油は、ペーパーなどで一度ふき取ってから、あらうなどして、流さない方法を考えようと思いました。

そして、よごれた水をきれいにするために、び生物が分かいてくれる事を知りました。実さいに、よごれを分かいてくれるくまむしや、コルシラ、アルケラなどをけんび鏡で見ました。ぼくは、けんび鏡でしか見えないほど小さい生き物が、人間のためにがんばって分かいてくれているなんて、申しわけないなと思いました。

また、下水道には、よごれた水のくだの他に、雨の水をながすためのくだもあるそうです。大雨がふった時に、家や道路に水があふれないようにするため、地面の下にくだが通っています。学校や公園の下にも、雨の水をためられる場所があるそうです。ぼくらの生活を守るために、見えない所にも工夫されているんだなと思いました。

土は、水をきゅうしゅうするけれど、人間が作ったアスファルトは水をきゅうしゅうしづらいので、水があふれやすくなってしまいます。アスファルトの道路は、ぼく達にとって、とてもべんりだけど、水があふれてしまう原因になってしまうのです。だから、人間の都合で、山をけずったり、まちを開発する事はしんちょうに考えないとはいけないと思いました。

ぼくは、生き物が大好きです。休みの日に家族と一しょに川や海へ出かけます。川には、メダカ、ナマズ、カマツカ、ドジョウなどの生き物がいます。海にも、フグやキスが泳いでいます。水は、生き物やぼく達の生活に大きく関わっています。

生き物や人間、みんながゆたかに生きていけるよう、水を大事にしていきたいと思います。そのためには、みんな一人一人が、使った水の行方を想ぞうして、今自分にできる事を、取り組みれば良いと思います。

優 秀 賞

市立北小学校 桐山 寛人 さん

北小  
積山樹  
川を守る

最優秀賞  
市立北小学校 積山 樹 さん

北小  
吉村友偉  
川と水

入賞  
市立北小学校 吉村 友偉 さん

本町小  
西本か  
のき  
る生き  
水

優秀賞  
市立本町小学校 西本 華乃貴 さん

北小  
宇田川  
遙日  
川と水

入賞  
市立北小学校 宇田川 遙日 さん

北小  
星野  
る生き  
水香音

入賞  
市立北小学校 星野 香音 さん

東小  
町田一紗  
る生き  
水

入賞  
市立東小学校 町田 一紗 さん